

団体名 南風原町立 津嘉山小学校	連絡先 TEL : 098-889-1230 Eメール : se-tuka5@pub.town.haebaru.okinawa.jp
----------------------------	---

1. 実践事例 ① 「幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携（幼小）

幼・小連携を通して子どもの育ちをつなぐ

幼稚園は、遊びを中心とした生活を通して、一人一人に応じた総合的な指導を行い、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習を行う。そこに、生活の変化（段差）が生じ、その変化が大きければ、小学校生活にうまく適応できない状況生まれる。

子どもの生活が入学を機に変化しても、子どもたちの発達の連続性を確保するため、不必要な段差を取り除き、円滑な接続を図ることが必要であることから、次の3点にポイントをおき、幼・小連携を進めてきた。




- 幼児と児童にとって、互いに育ちや学びにつながる交流活動を行う。
- 幼稚園教員・小学校教員が、教育内容や指導方法の相互理解を図る。
- 幼・小連携を年間指導計画に位置付ける。

2. 実践内容

子ども同士の交流活動は、「やってあげる」や「お招きする」というものではなく、双方に学びのある、共に主体として活動できる内容でなくてはならないと考える。そのため、事前・事後の話し合いを大切に、互いのねらいや目標を確認しながら活動計画を立てた。

- 幼稚園教員・小学校教員が協働で子どもたちに関わり、活動を進める。
- 事後の話し合いを通して評価し、次の活動に生かしていく。

3. 説明資料

1・2・5年生との交流	
11月	<p>例年は教室に入って授業を参観したり一緒に活動を行ったりしているが、今年度は、コロナ禍のため距離をとっての授業見学となった。（幼稚園生が来校し1年生の授業を見学）</p> 
11月	 <p>幼稚園の公開研究保育に小学校から低学年の先生を中心に参加した。その後の研究協議会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をどのように育てていくかなどを話し合い幼小接続を図っている。</p>
12月	 <p>例年はダンスを教えて一緒に踊ったり、ゲームやレクを楽しんだりしている。今年度はコロナ禍の影響もあり、過度な接触を避け、互いに運動会のダンスを見せ合った。（小学校の体育館で幼稚園生と2年生の交流会）</p>

1月		<p>「年長さんと仲良くなろう」 5年生(新6年生)と顔見知りになることで次年度、安心して小学校へ入学できるようにする。読み聞かせやじゃんけんゲーム、マルバツゲームを楽しんだ。手作りのメダルをプレゼントし、終始温かい雰囲気にもまれていた。</p> <p>今年度は天候の関係により室内での交流会となったが、例年は運動場でレクやスポーツを楽しんでいる。</p>
2月	<p>1学年国語科の「小学校のことをしょうかいしよう」にて、来年度の新生児に、小学校生活を楽しみにしてもらえるように、経験したことを話す单元がある。感染状況を踏まえて交流方法を検討している。</p>	

4. 成果

- 校種間で子ども同士の交流をすることにより、体験の幅が広がり、年下の子に対する思いやりの気持ちや年上としての自覚が芽生え、自信にもつながり活動意欲が高まった。
- 年下の子もたちと交流することにより、同学年で行うときよりもあきらめず取り組む姿が見られるようになった。
- 子どもたちが、他校種の先生と顔見知りになり、新しい環境にも慣れスムーズな移行につながっている。
- 事前の話し合いを持つことで、活動内容や援助について確認し、きめ細やかな指導ができた。また、事後の話し合いを持つことで、成果や改善点が出され、次の活動につなげることができた。
- お互いの子どもの発達段階や教育内容等知り合うことができた。
- 同敷地をいかし日常的に子どもの行き来が見られるようになった。
- 連携に取り組むことにより、それぞれの教育の見直しができた。

5. 課題

- 話し合いや変更になった場合の交流活動の時間確保が難しい。
- 交流活動において、それぞれのねらいを達成するために、より相互理解を深め、一体的な活動を作り上げていかなければならない。
- 交流活動は計画的に行えたが、教育課程上でつながるための幼・小接続には低学年担任のみの関わりとなった。全職員が把握し継続した接続が保たれるようにしたい。